
戦国時代の信長

スネーク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦国時代の信長

【Nコード】

N3392D

【作者名】

スネーク

【あらすじ】

戦国乱世那鹿野槍之介と言う青年と信長が出会った。そしてここで二人の運命が変わる、桶狭間の合戦であることが起きる。二人の運命はどうなるか

戦国の騎士（前書き）

霧野ミコト先生の作品を見て書きました

戦国の騎士

ときは戦国乱世。

戦で毎日人々が死ぬ日々。とある集落に青年がいた。彼の名は那鹿野 槍之介

（なかの・やりのすけ）

彼は特別の力を持っていた戦に熱中していると目の色が紅の色になるのだ。

それを恐れた人々は彼を避けたそして彼は旅に出たのである。

槍之介は浪人として諸国を歩いていた。

そして集落である男にであつたそれは織田信長であつたまだこのころ小さかつた織田家の信長に出会つたのである。槍之介は酒屋に入つたそこに席が無かつたのか武将らしき人物が隣に座つたこれが信長との劇的の出会いだった。

槍之介はただ者ではないとはわかつていたが席を立たず座っていた。そして信長もただ者ではない思ったが一目できにいつて

「お前俺につかえぬか」と言われた。槍之介は驚いた。槍之介は答えた。

「俺は俺の生きざまを生きるだからつかえるきなどない」槍之介言つただが信長は

「その生きざま俺にくれ」その言葉に参つた槍之介はつかえることにした。だが槍之介には目のことがある。槍之介はばれたら殺される覚悟でつかえた。そして数年たったある日二人は友のように過ごしてきた。そして隣国の今川氏が京に上ろうと攻めてきたのである。そこで槍之介と信長は考えた。そして数的に不利な信長達はうつけのフリをした。そして奇襲をかける場所、桶狭間に来た。

そこで信長と槍之介は城を出て行った。途中で雨が降ってきた信長は「これは天命だ」と言つた。そのあとに続いて槍之介は

「天命である神は俺達を勝たせてくれる。みんな思う存分ただかう

がいい」そういった。そして戦ったがある一人犠牲になった信長である。それに悲しんだ一日中泣いていただが信長の夢であった天下統一をしようと自分の名前を捨て信長と名乗った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3392d/>

戦国時代の信長

2010年10月9日21時41分発行